



「はばたき文化の発展」

教頭 大澤 充

校舎から見える赤城山の頂が白くなり、空っ風が冷たく本格的な冬がやってきました。植松橋の近辺の荒川にはハクチョウが飛来し、元気な姿をみせています。

暑い9月に始まった2学期、一人一人が充実した学校生活を過ごし、終業式を迎えようとしています。

児童生徒は、日々の授業、修学旅行や宿泊学習、遠足、全校行事「メロンフェスティバル」(文化祭)、高等部の現場実習、マラソン大会等、様々な学習活動や経験を積み重ねて大きく成長しました。

開校6年目を迎え、「はばたき」としての基礎ができ、発展期にさしかかっています。今年度、全職員が児童生徒の主体的な活動(学習)を推進するためにいろいろな工夫を行っています。その一つがメロンフェスティバルでの一コマです。いかに教員が脇役になり、児童生徒が自ら動ける環境を設定するか、「何をすればいいか。やったことが何に繋がるのか、結果どうなるのか」など、一連の流れを児童生徒が理解することが主体的な活動に結びつきます。そのための脇役のすべきことは、日々の学習のなかでの支援の在り方です。一人一人の支援方法は違います。しかし、主体的というキーワードを外さなければ、支援方法は決まってきます。はばたきの文化がより発展するためには、全職員で一人一人の児童生徒を大切に、同じ方向に舵を取り、チームとして取り組むことです。この実現に向け取り組んだ成果が、メロンフェスティバルだったと思います。

児童生徒の笑顔や自信が、社会的自立に結びつくとともに、学校としても一步一步成長してきました。これも、保護者の皆様のご理解とご協力はもちろん、後援会、地域の皆様、各関係機関のお力添えの賜物です。

結びに、今学期の本校の教育活動にご支援、ご協力をいただき大変ありがとうございました。良いお年をお迎えください。

